

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 5月 11日

【評価実施概要】

事業所番号	0171401680		
法人名	有限会社 ハマダコーポレーション		
事業所名	グループホーム おもひで 懐		
所在地	〒041-0836 函館市山の手2丁目5-16 (電話) 0138-30-1122		
評価機関名	社会福祉法人 北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年2月17日	評価確定日	平成21年5月11日

【情報提供票より】 (平成20年12月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	17年	10月	11日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	16 人	常勤	15人,	非常勤 1人, 常勤換算 15.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての ~ 1, 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000円	その他の経費(月額)	23,600~28,600円	
敷金	有()円		無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有()円	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	500 円
	夕食	550 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(12月31日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	6名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.3歳	最低	71歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	響の杜 普原内科 函館渡辺病院 脳神経センタークリニック 吉田眼科 白戸耳鼻咽喉科 ひらい歯科
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の二階からは、目の高さに函館山の上場が見える。大きな窓からの陽射しは、広々とした居間に注ぎ、利用者の笑顔を照らし出している。この事業所の特徴は、運営者と管理者の目的が合致していることである。故に職員は倫理感があり、活動的なことが日々利用者の希望に応えられている事でも、うかがえる。更なるケア、サービスの質の向上を期待する。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	家族への報告について、利用者の日々の健康状態と生活の様子などの写真と共に、金銭の領収書の原本を送るなどして改善している。
重点項目②	全職員が項目ごとに意見を出し合い、検討し、自己評価に取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	2ヶ月に1度開催している運営推進会議では、家族、構成員等の意見や情報を収集し、事業所の運営に反映している。また、議事録を整備し、次回開催に活かす工夫もしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	玄関正面の机の上に、苦情、要望箱を鍵をかけて設置していた。職員は家族来訪時、積極的に声がけし、苦情、要望などを聞き出せるよう努めている。また、外部への相談窓口も、家族へ文書で伝えているとともに、玄関にもはっきりと見やすく明示している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会の清掃活動に参加し、紙芝居、小学生のバトンフラワー、大正琴演奏、音楽療法士のボランティアの受け入れなど、地域との交流を図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の人格を尊重し、その人らしさを支え、共にこの地域で「おもいで」をつくりたいと、事業所独自の理念をつくり実践に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットにおいて、朝のミーティングの他に、常に時間のある折を利用し、理念の実践に向けた話し合いをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の清掃活動の他、近所の方々の訪問見学、また、大正琴、紙芝居、音楽療法士のボランティアに、近隣の小学生によるバトントワラー等、地域との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者と管理者は率先して、自己、外部の評価を運営推進会議の議題にあげて、全職員と共に取り組むことから実施するよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している運営推進会議では、サービスの向上を目的とした活発な意見交換を行い、事業所の運営に反映させている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の介護高齢福祉課、または、地域包括支援センター及び保健所職員と共に話し合いを多くもち、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、事業所便りと日常の生活状態を撮った写真及び金銭管理委員による買物等の伝票の原本を家族に送付している。事業所訪問時には再度確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在のところ、特に不満、苦情は無いが、意見箱を設置し、家族の意見を聞ける態勢を整えている。また、家族が事業所来訪の折は積極的に声がけし、意見等が出やすいよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の離職などで利用者が受けるダメージを認識し、福利厚生面についても極力、職員の希望を取り入れるよう努力している。なお、年休は使い切るよう指導している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者、管理者は、職員の段階に応じ、積極的に研修会等の受講や、国家試験受験の為に応援に努め、昨年度は、働きながら介護福祉士合格者も出ている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは、勉強会、ブロック別会議などで交流があり、この事によりサービスの質の向上に大きく影響がある。また、職員の参加希望も多い状況となっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	運営者、管理者は、利用開始予定者の家庭訪問から始め、事業所見学を重ね、納得の上での利用となるよう努めている。利用後も早く事業所の雰囲気に馴染めるよう、細心の努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩として、孫のような職員に格言で人生を語り、職員も、また、それを素直に受け入れ、「支え合う」という、より良い関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりの希望に沿うために、事業所理念に基づき支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見を採り入れ、職員は日常の利用者の状態を申し送りとし、業務日誌に記録、それをケアマネジャーと話し合いのうえ、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね、3ヶ月に1回の見直し期間にしているが、極端に、日常生活を送る上での色々な動作について低下を感じられた場合は、全職員で話し合いのうえ、ケアマネジャーが見直し計画の作成にあたっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合上、利用者の希望する用件、かかりつけ医の診察、法事、美容院、自宅への送迎等々が困難な場合、事業所がかかわって柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望するかかりつけ医への受診支援の他、協力医の隔週での受診も行っている。また、利用者の変化に気付いた場合の電話相談による支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始に際し、家族と終末期に向けての話はあるが、積極的に医師、家族、管理者、職員での方針の共有には至っていない。	○	協力医師、看護婦、管理者、職員が、家族の集いを利用し、真剣な話し合いがもてるよう段取りをする事を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する職員の言葉づかい、態度は、自然体で穏やかで、身内に接するものであり、特に管理者は自らが、態度で示している。記録等の取り扱いは適切に行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の希望に添い、ドライブ、花見、外食等柔軟に対応している。年間行事計画はあるが、それ以外での支援も多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と全職員と一緒に「いただきます」で始まる食事だが、全員と一緒に終わる事はない。利用者が自ら台所に立ち、後片付けを手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	運営者が約30km遠方より温泉水を汲み運び、週2度温泉入浴を楽しんでもらっている。また、入浴については、毎日利用出来る。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、編み物、園芸などあるが、利用者全員一致での楽しみは、月2回ボランティアで来訪する音楽療法士であり、この時ばかりは声を大きくし、楽しく歌っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買物、ドライブなど、個人に合わせた支援をしている。また、夏季にはソフトクリームを食べる為の外出が多いなど、出来るだけ戸外に出られるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上の都合により、夜間9:00～翌朝6時までは施錠しているが、日中は鍵はかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力により、年2回避難訓練を実施している。夜間想定訓練も行っているが、地域の方々の協力を得るまでには至っていない。	○	災害対策委員会は運営推進会議の町会役員などに働きかけを行い、地域の協力を得られるような努力を期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の日々の健康状態を細やかに記録している。1kgの増減の都度、医師より指導を受けている。特に目立った減量が見られる場合、医師から高栄養流動食の指示がある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな南向きの窓からの陽射しは、居間の利用者を暖かくつつみ、家庭的な雰囲気である。職員と利用者が協働で作り上げた「雛飾り」が、居間の中心に鎮座している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスの上に、懐かしい家族の写真や飾りや、仏壇が置いてあり、安心できる居室となっている。		

※  は、重点項目。